

F u - Z i n

第33号
平成25年4月発行



報告

第29回NPO博多の風フォーラム

岩松・宗一・沢田の
「城談じゃないぞ」



報告 第12回
楽文コンテスト表彰式

告知 第12回 博多のおいしゃんと歩こう
追い山笠コース探訪

近年の活動

※設立からの詳細はホームページをご参照ください

平成23年

- 4月 第26回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師:高島宗一郎氏(福岡市長)
- 5月 第19回 はかたの町クリーン作戦 (雨天中止)
- 6月 第10回 追山コース探訪 開催
第11回 祭童子集まれ楽文コンテスト 実施
- 10月 第20回 はかたの町クリーン作戦 (雨天中止)
- 11月 第27回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師:大庭宗一氏(NPO博多の風理事長)
沢田幸二氏(KBC福岡放送アナウンサー)

平成24年

- 4月 第28回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師:松本卓士氏(RKB毎日放送報道部記者)
- 5月 第21回 はかたの町クリーン作戦 開催
- 6月 第11回 追山コース探訪 開催
第12回 楽文コンテスト 実施
- 10月 第22回 はかたの町クリーン作戦 (雨天中止)
- 11月 第29回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師:岩松 城(毎日新聞西部本社編集局長)

NPO博多の風の歩み

- 設立
平成10年 9月
任意団体『博多の風』設立 代表:大庭宗一
- NPO登記
平成12年 6月
『NPO博多の風』として登記 理事長:大庭宗一

NPO博多の風事業概要

- 啓発事業
 - ・博多の風フォーラム開催
 - ・広報誌・HP発行
 - ・毎日新聞世論フォーラム公聴
 - ・作文コンクール(楽文コンテスト)実施
- 地域環境向上事業
 - ・博多の町親交
(清掃活動クリーン作戦・冷泉小学校跡地提言・山笠文化継承)
- 活性化事業
 - ・書籍出版
 - ・博多祇園山笠の振興
 - ・追山コース探訪開催
- 協力事業
 - ・各市民団体との情報交換及び支援

NPO特定非営利活動法人



〒812-0027
福岡市博多区下川端町8-16 -302
FAX 092-263-7188

E-Mail info@hakanokaze.jp
URL http://hakanokaze.jp

題字:新井光守



岩松・宗一・沢田の「城談じゃないぞ」

去る平成24年11月17日、第29回NPO博多の風フォーラムが福岡市立博多小学校「表現の舞台」にて行われました。今回は毎日新聞西部本社編集局長である岩松城さんにご登壇いただき、『岩松・宗一・沢田の「城談じゃないぞ」』と題して、新聞の紙面づくりの実態や、インターネットと新聞の違いなどについてお話いただきました。フォーラムの後半では、大庭理事長と司会を務める沢田アナウンサーも加わり、スクープ記事のことや、政治話まで多くの話題についてお話いただきました。

■情報伝達の要は何と…

新聞記者なんて沢田さんのように喋るのが上手ではないんですが（笑）、新聞記者になって33年、これまで経験してきたこと、体験してきた事を中心にお話できればと思います。

最初に毎日新聞の歴史についてお話しすると、今年でちょうど140周年、日本で一番古い新聞になります。その代わり、日本で一番給料の安い新聞社でもあります（笑）。

九州・山口に進出してきたのは一九八四年、門司からです。これは日清・日露の戦争の時代の話をするにはどうしても門司港が中心となったため、門司で情報を得てそれを東京に送るといふことをやっていたんですね。この頃の資料を調べるとですね、通信手段は

今みたいに電話とかインターネットとかありませんから「伝書鳩」だったそうです。釜山に伝書鳩を何羽か置いて、足に今の戦況をつづつた物をくり付けて、それを門司の本社で受け取って、それを今度は電報で東京に送って新聞を作るというようなことをやっていたんですね。だからその伝書鳩が鷹なんかに襲われると全然情報が入ってこないといった、そんな時代だったようです。

■紙面作りはまさに戦場！

紙面を作るときに、毎回毎回「交番会議」というのをやります。交番会議というのは、今日の社会面の頭を何にするか、一面の頭を何にするかといったことを決める会議で、福岡の場合は小倉と福岡でテ

レベ会議を1日に3回、各締切時間の前にやるんですね。

で、ここで検討するわけです。よくテレビのドラマなんかで出てくるんですけど「何で俺の特ダネが一面じゃないんだ」といって、たまには掴みあいの喧嘩になったりもするんですね。この話し合いを通じて今日の紙面のメインニュースはこれじゃないかというのを皆で決めてレイアウトした後に印刷に廻していく…という流れになります。で、最終の締切が午前1時半なんですけれど、その後午前3時半までは当直の人達は残ってお酒とおつまみを片手に反省会をします。そういうことをやっているから私みたいに太ってしまうんですけれど…（笑）。

ただ、この反省会がとても大事なんです。一つは皆の



岩松 城(いわまつ じょう)
毎日新聞西部本社編集局長
鹿児島市出身。1980年毎日新聞に入社。長崎支局を振り出し、小倉報道部や福岡本部で、事件記者や遊軍記者として取材活動。東京社会部では「旧石器発掘捏造」事件の担当デスクとして企画や出版に携わった。2010年4月から現職。

意思疎通を図って記事や見出しについてああだこうだと言っていくこと。そしてもう一つは午前3時半になつたら読売・朝日・毎日でそれぞれの記事をファックスを流してお互いに交換するんですけど、それを見て記事の内容が出し抜かれていることがあるんですね。もしそんなことがあれば、午前3時半だろうが担当の記者を叩き起こして備えさせるんですね。何で備えさせるのかというと、警察の方とか知事であってもなかなかお役所に行つてからは守秘義務があるので語ってくれない。だからその人が家から出てきて車に乗り込むまでの間に、他社が抜いている事はウチも追っかけていいのかという確認をしなければいけないんです。そのためには朝6

■過酷な「新聞記者」の仕事。でも…

私たちの仕事は基本的に徒弟制度です。山笠をやっておられる方はそうだと思いますけど、みんな先輩達のテクニクを学んだりしながら徹底的に鍛え上げられていく…というのが基本ですね。

どんなテクニクかというのと、よその記者が教えてくれるんですね。例えば、まず教えられるテクニクの一つとして、「他社の記者の靴を覚えろ」と。例えばイタリアの高級な靴を履いているとか、

を知っていたり、たくさん人の苦しみを聞いていたりした記者ほど、やっぱり相手が反応してくれるんですね。

今回、東日本大震災の時に、3月から12月までずっとうちの記者を九州から最大で15人送り込んでました。彼らがそこに行つて人から話を聞く時に、記者の感応する力を取材相手が感じ取るんですね。「この人は自分の想いや悲しみを感じ取ってくれるのではないかと」と相手に思わせる力、それこそが「取材力」だと僕は思っています。皆さんにも、この人は話しがしやすい、いつまでも付き合っていたいと思ふような人もいれば、コイツとは絶対話しをしたくないって人もいるかと思えますけど、こういったオーラみたいなものが、人の後ろにはあると感じています。

そして、これからの新聞にとってテーマとなるのは「調査報道」だと思っています。調査報道っていうのは警察の発表をそのまま聞いてそのまま字にして出すっていうのはなく、自分でいろんなことを考えて、これはもしかしておかしいんじゃないかということを自分でテーマを決めて追求していく。で、その一番面白かったのが2000年にあった「旧石器発掘捏造

■ぜひ、もつと「新聞」を！

私が一つ言いたいのは、パソコンも自由に使えるようになり、フェイスブックやツイッターなどいろいろあるわけですけども、今から一番大事なのは、僕はやっぱり情報を引き出して書きまとめる能力、つまり「リテラシー」だと思ってるんですね。つい先日、福岡の理系の大学生240人に職業講座ということである話をしてました。で、240人のうち、今朝新聞を読んできた人は？と聞いたところ、たった1人だったんですよ。たった1人だったんですよ。じゃあレポートを出しなさいということ。震災後の今の原発報道をどう思うか」という課題を出したとこ



第29回 博多の風フォーラム

■「疑え、もつと疑え」
時々、「取材力って何ですか？」って聞かれることがあります。人を付けまわしていつて粘りがあるっていうのが取材力ではなくて、結局のところ、いっぱい人の悲しみ

いつもスニーカーだとか。で、夜に刑事さんのところなんか夜回りに行った時、新聞受けから中をそつと覗くと、その靴が玄関に置いてあったりする。それを基に他の新聞社はどこを狙っているとか、どういった記事を書こうとしているとかということが分かってくるわけですね。そういうテクニクを教えられるというのが新人記者の時代です。そういう生活をしているんですね、まあ仕事が終わるのが朝方ということもザラだし、休みが無いとか転勤が多いとかいうことで辛いんですけど、一方では出会いがあつて毎日が新鮮ですね。それから名刺1枚で誰にでも会えるというのは本当に楽しいです。知事でも国会議員でも。読者の反応も、ものすごく伝わってきます。世の中が変わっていくというのが実感できるんです！そういったことがあるから続けていけるんだなあと思っています。

路全体の3割が0点だったんです。なぜ0点かというと新聞やテレビを見てちゃんとニュースを理解しているかというところが、インターネットの口コミサイトを見てやっているんです。だから噂話が情報源なんで、正しいじゃないですね。

そうやってくると、私達は企業のトップの人とお話をすることもあるんですけど、そういう冷静な判断が出来ない人達が社会に入ってくるその会社は混乱するわけですよ。やはりその辺りの能力の有無を見極めていくことが会社として重要になる。というふうに思うわけです。

インターネットは非常に便利なんだけれども、みんな自分の好きな分野だけしかクリックしないんですね。だから自分が求める情報以外に、世の中の人がこれが大きい事件だと思っているよ、これがもっと凄い話なんだよ、といったことが全然見えなくなっている。先ほど言ったように、例えば新聞の場合「交番会議」を通じて、どのニュースが大切かという話し合いを一生懸命やって世の中の人達が大事だと思うニュースを出しているだけけれども、それを読まなければ、知らなければ、全然情報としては伝わっていない。

という事になるわけですね。小学校や中学校で新聞を読むことが昨年あたりから学習指導要領にも取り入れられて学校で新聞を読むということになっていくんですが、皆さんも暇があったら是非新聞を読んでいただきたい。そしてその新聞の作成の裏側にはいるんことをやっている人達がいまして、数多くのニュースの中から何が今大事なニュースだということを考えながら提供しているんだということも是非分かっていたらなあと思います。



■大庭理事長・沢田アウンサー登場！

(大庭) 今、お話を聞きながらいろいろと考えていたんですけど、新聞を読む、そして読んで読む、それからまた考えた、「自分だったらこう思う」というふうな発想することが、今の時代、無くなってしまうんじゃないかと思ってるんじやないかと感じましたね。

(沢田) 私も先日たまたま社内30代の人に新聞を取っているか聞いてみたら、取っていないと…。

(岩松) やはり、情報はインターネットで、という人が増えてきていますよね。

(大庭) インターネットで知る情報というのは、やはりその人にとって興味のある部分だけなんです。でも新聞を読んだら、知って得した！という記事とか、ちょっとしたコラムなんかもありますよね。ゴシップネタが中心のスポーツ紙なんかでも政治ネタに「んっ！」と思うような新しい発見があったりもするんですよ。

う書いていけるけれども、他の新聞はこんなふうには書いていない。といった具合に背景を知りたい時とか多角的にモノを見たい時になるべくいろんな新聞を見るようにと先輩からも言われてきました。やっぱりこういったことを僕らの世代がちゃんと継承していかないといけないなあと感じています。

(大庭) 新聞社ってそれぞれの会社ごとに会社のカラーってありますよね。で、どうしても焦って特ダネを求めてしまっても、結果失敗してしまうこともあると思うんですけど、どうなんでしょうねえ？

(岩松) 新聞社のカラーって確かに全然違いますよね。私は何度か言いますが給料は安いんですけども、毎日新聞社が本当に好きなんです。うちの新聞社はかなり自由なんです。例えば山笠について言いますと、私は山笠に一緒に書いていただいて出ていまして、フツとよそを見るとウチの社員が5人ぐらい山笠の現場にいるわけですよ。こんなんで本当に新聞が作れるんかと思えますけれど(笑)、それでも自由にさせてくれるんですね。また、1つのテーマに関して社説では「賛成」と書いていても、その隣の欄に、書いた記者の

署名入りで「反対」と平気で書ける。その自由闊達さについて周囲から「社風が無い」と言われることがあるけれども、そうではなくて1つの紙面を通していろんなことを議論ができる、読者にいろんな視点を提供するということができる新聞社であると思っています。

僕ら新聞記者っていうのは自ら足を運んでいって、まさに「フェイス・トゥ・フェイス」なわけですよ。だから僕はインターネットをあまり信用していません。というの、情報というのは人から人にか伝わらないのに、インターネットに流れていることは人から伝わっただけの情報を書いているんであって、やはり最後は自分で確認していかないといけないと感じています。

(沢田) そういう意味では、この間i ps細胞を使って手術をしたと言った人には新聞社各紙がまんまと騙されてしまいましたよ。あれは何で騙されたんですか？

(岩松) 多分あれはですねえ。(岩松) 論文もちゃんとあるし、それで載っちゃったと思うんですよ…。

(沢田) 僕、あれを紹介しちゃったんですよ、番組で。「もう成功した人がいますよ！スゴイですね！」なんて言っ

たら次の日にはもう「間違ってたことを言ってしまった」と(笑)。あるもんなんですねえ、ああいうことって。

(岩松) 新聞といえども信じてはいけないということですね(笑)。

後半は大庭理事長や沢田アウンサーも交え冗談も飛び交いつつ、スクープ記事のことから政治話まで多くの話題についてお話いただきました。これだけテレビ社会、インターネット社会と言われる世



の中であっても、新聞が持つ役割や影響力が無くなることがないのは、「調査報道」のような新しい伝え方を求めている姿勢はもちろん、新聞自体が記者の皆さま方の手間暇や思い入れの結集であり、それが紙面を通じて伝わってくるからではないかとお話を聞いていく中で感じました。

今回のお話を通じて岩松さんの新聞作成にける情熱を強く感じると同時に、改めて手間暇を惜しまず何事にも取り組んでいく事の重要性を再確認することができた有意義な場となりました。

(田中 大士)

報告 第12回 楽文コンテスト表彰式



第29回博多の風フォーラム開催と併せて、同日午前中に「第12回 楽文コンテスト」の表彰式が執り行われました。今年で12回目を数える楽文コンテストには福岡市内外の小中学校から千を超える数の作品が集まり、その中から計30作品が受賞作として選ばれました。今回のテーマは「みんなが大好きなこと」。それぞれの作品には、家族のこと、友達のこと、スポーツのこと、そしてお祭りのことといった皆さんの「大好きなこと」を自由な発想で書き綴っていただきました。

入賞作品の中には家族について綴られたものが多くあり

ました。下山門中学校3年の三宅有紗さんは「父の姿」というタイトルで、いつの間にか出来てしまった大好きなお父さんとの微妙な距離感を感じつつも日々の生活の中で感謝の気持ちを改めて感じたことについて書いてくれました。また、照葉小学校2年の伊田心さんは「大好きななっちゃん」というタイトルで幼い妹への愛情を素直な文章で書き綴ってくれました。その他にも大人の私たちに家族の温かな存在について改めて感じさせてくれる作品が並びました。

その他にも、夢中になって取り組んでいるラグビーについての熱い想いや博多祇園山笠に参加することができる喜びなど、大好きなことについて「楽文」で表現してくれた作品揃いとなりました。

表彰式では6つの受賞作品の受賞者本人による朗読も行われ、受賞者の皆さんに対し温かな拍手が送られました。

(大浦 晴彦)

告知 第30回 NPO博多の風フォーラム 開催のご案内

■開催日時:平成25年4月13日(土) 開場:13:30/開演:14:00 ■開催場所:博多小学校「表現の舞台」

講演 「博多のおいしやんの法律講座」 講師 前田 敦氏 (西南学院大学 法学部准教授)

※ご家族、ご友人をお誘い合わせの上、ご参加ください。多数の方のご参加をお待ちしています。

NPO博多の風 平成25年度総会

平成25年3月16日(土)開催

各担当理事及び幹事の出席のもと平井事務局長の司会で平成25年度の総会を実施しました。

- 一号議案 平成24年度事業報告、決算、監査報告
- 二号議案 平成25年度事業計画、予算審議
- 三号議案 役員人事

右記に関して審議を行い、満場一致の拍手のもとに承認されました。



- NPO博多の風 平成25年度 体制一覧**
- ◎理事長 大庭 宗一
 - ◎副理事長 因幡 敏幸 (追山コース探訪事業担当)
 - ◎理事 平井 彰 (事務局長・楽文コンテンツ事業担当)
 - ◎理事 大庭 信雄 (イベント総括担当)
 - ◎理事 松本 昭久 (企画・出版事業担当)
 - ◎理事 野田 輝幸 (会計・博多の町親交事業担当)
 - ◎理事 野中 雅治 (総務・広報企画事業担当)
 - ◎理事 村岡 昌哉 (フォーラム事業担当)
 - ◎理事 中川原謙二 (追山コース探訪事業担当)
 - ◎理事 山口 覚弘 (広報企画事業担当)
 - ◎理事 金子 俊明
 - ◎理事 板谷 益男
 - ◎理事 後郷 光信
 - ◎理事 太田 勇之助
 - ◎理事 福田 一男
 - ◎理事 笠 信一 (財務担当)

告知 第12回 探訪 博多祇園山笠追山コース

平成25年6月2日(日)開催(予定)

恒例の「追山コース探訪」が今年も6月に開催されます。当番法被に身を包んだ「おもしろい」達と追山コースを回りませんか？山笠の歴史や昇手ならではの迫力ある解説など、ここの話もとびだしますよ！



第11回の模様(平成24年6月)

告知 第23回 はかたの町クリーン作戦

平成25年5月25日(土)開催(予定)

「安全・安心の街づくりはきれいな街から」ということで、年に2回、追い山コースを中心に、清掃活動を実施しています。冷泉公園の「青い幟」が目印です。私たちと一緒に、町も心もすっきりさせませんか？多くの方のご参加をお待ちしています。



第21回の模様(平成24年5月)

NPO博多の風 賛助会員募集のお知らせ

我々「NPO博多の風」の主旨をご理解いただき、活動に賛同いただける方を広く募集しています。お知り合いの方をご紹介ください。

お問合せ 「NPO博多の風」広報企画(担当:山口)

E-mail info@hakatanokaze.jp
FAX 092-263-7188



NPO博多の風の最新情報はホームページに掲載中です。

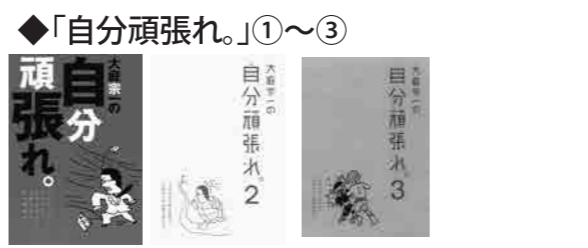
URL <http://hakatanokaze.jp>

大庭宗一の大人気エッセイ シリーズ第8弾 「明日への一言。8」



定価600円(税込)

NPO博多の風のホームページでも購入申し込みができます。



〔編集後記〕
春の訪れを実感し始めた3月中旬、娘の卒園式がありました。入園式の時には、周りの子供達と話す事もできず不安そうにしていたのに、卒園式では、しっかりと返事をし、自信に満ちた表情で歌を歌う姿をみて、子供の成長を実感し、感動しました。
この3年間で、自転車にも乗れるようになったし、逆上がりも出来るようになったになりました。「こうなりたい」と強い想いをもち、試行錯誤を繰り返して、日々小さな努力を重ねていった結果だと思えますし、大人としても改めて学ぶ所も多々あります。
我々大人も、今までのやり方を続ける事だけを是とするのではなく、本質を見極めた上で、改めて今の時代やタイミングにおいて最適なものを色々と試していく事が必要かと思えます。
地域の宝である子供達の未来の為に親として出来ることは、身近な所にもたくさんあると感じた今日この頃です。
(中山 肇)